はしがき

日本語では、「ピンクの素敵なドレス」と「素敵なピンクのドレス」のどちらも可能ですが、英語では、*a pink nice dress とは言えず、a nice pink dress と言わなければなりません。（* は、それが付された表現が不適格であることを示します。）皆さんは形容詞を並べるとき、その語順に戸惑ったりしませんか。

次の（1a）は、皆さんよくご存知のように、ケヴィンとメグの年令が同じという意味で、二人とも年をとっている（old）という意味はありません。一方（1b）は、二人の年令が同じという意味だけでなく、二人とも若い（young）ということを意味します。

（1） a. Kevin is as **old** as Meg.

b. Kevin is as **young** as Meg.

これはなぜでしょうか。

一方、次の比較級を用いた表現はどうでしょうか。

（2） a. Mike is **older** than Sue.

b. Sue is **younger** than Mike.

（2a）は、マイクがスーより年上という意味で、（1a）と同様、二人とも年をとっているという意味はありません。一方（2b）は、スーがマイクより年下という意味で、（1b）と異なり、二人とも若いという意味はありません。（1b）と（2b）は何が違っているのでしょうか。

次の（3a, b）に示すように、think, say, claim のような動詞が that 節を目的語にとるのと同様に、afraid, certain, aware など多くの形容詞も that 節をとります。

（3） a. John **thinks** that he has terminal cancer.

b. John is **afraid** that he has terminal cancer.

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

しかし、(3a) の他動詞文では、その that 節が (4a) のような What John thinks is ... (ジョンが思っていることは … だ) の ... の位置に現われますが、(3b) の afraid の場合は、(4b) が不適格で、(4c) のように of を入れなければなりません。

(4) a. What John **thinks** is that he has terminal cancer.

b. *What John is **afraid** is that he has terminal cancer.

c. What John is **afraid of** is that he has terminal cancer.

動詞と形容詞でなぜこのような違いがあるのでしょうか。

本書は、このような英語の形容詞に関する疑問を取り上げ、その謎を解き明かします。皆さんはきっと、形容詞の使用の背後に整然とした規則があることを理解され、納得されるとともに、言葉の体系的な仕組みに驚かれることでしょう。

本書は 12 章からなります。第 1 章では、(5a, b) のような目的語の状態を述べる形容詞や、(5c) のような主語の状態を述べる形容詞について考察し、どのような形容詞ならこの構文パターンに現われるかを明らかにします。

(5) a. I like <u>my tea</u> **hot**. (紅茶は熱いのがいい)

b. We can buy <u>fish</u> **fresh** at the market.

c. <u>John</u> came home **drunk**.

第 2 章では、(第 1 章で考察した) 目的語や主語の状態を述べる形容詞、さらに目的語の結果状態を述べる形容詞などが、次のように Wh 疑問文になった場合の適格性について考察します。

(6) a. ***How angry** did John leave the room?

[<u>John</u> left the room **angry**.] (主語描写述語)

b. ***How fresh** did John drink the milk?

[John drank <u>the milk</u> **fresh**.] (目的語描写述語)

c. **How blond** did Mary tint her hair?

[Mary tinted <u>her hair</u> **blond**.] (結果述語)

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

そして、この Wh 疑問文パターンがどのような条件のもとで適格となるかを明らかにします。

第３章では、（7a）のように、形容詞が名詞の前に現われる限定用法と、（7b）のように、名詞の後ろに現われる叙述用法の意味の違いを考えます。

（7）　a.　an **unhappy** man（限定用法）

　　b.　He is **unhappy**.（叙述用法）

そして、限定用法の形容詞は、それが修飾する名詞の恒常的特徴を表わし、次の表現は、「見つかった」という状態が瞬時に終わる、一時的特徴のため、不適格だとする安藤（2005）の主張を取り上げ、それが妥当でないことを示します。

（8）　*a **found** purse（適格性判断は安藤（2005: 483）のもの）

次に第４章は、冒頭で述べた *a pink nice dress / a nice pink dress などの形容詞の語順について考察します。第５章では、She's **certain** / **sure** to win. のような文で、「彼女が勝つ」と確信しているのは、主語の She なのか、話し手なのかを明らかにします。そして、このような文が、疑問文、命令文、主語が話し手の文、間接話法や自由間接話法で用いられた場合に、とても興味深い現象が生じることを示します。そして第６章では、冒頭の（3），（4）で述べた、that 節（や to 不定詞節）をとる形容詞について考察します。

形容詞は、sick, angry, hungry のように、修飾する名詞の一時的状態を表わすものと、tall, intelligent, dead のように、修飾する名詞の恒常的状態を表わすものがあります。そして、「主語＋ be 動詞＋述語（形容詞）」パターンの文で、主語が定名詞句なら、これら２種類の形容詞が（9a）のように両方とも現われますが、主語が不定名詞句なら、（9b）のように一時的状態を表わす形容詞しか用いられません。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

（9） a. **The boy** is **sick / tall**.

b. **A boy** is **sick /*tall**.

ところが、（9b）のような不定名詞句主語に強調を受けた数詞や数量詞が用いられると、次のように適格となります。

（10）a. **One boy** is **tall**.

b. **Two girls** are **intelligent**.

第７章では、なぜこのような違いが生じるのかを明らかにします。

第８章～第 10 章では、比較構文の謎を３つ解き明かします。第８章では、冒頭の（1a, b）,（2a, b）で述べたような問題を取り上げます。第９章では、次の（11a）の than 節で、I am が I'm に縮約できるのに、（11b）の than 節ではその縮約ができないことを説明する Bresnan（1973）の分析を概観し、その分析には致命的欠陥があることを指摘して、私たちの分析を提示します。

（11）a. I'm sad, more than **I'm** angry.

b. *I'm sadder than **I'm** angry.

そして第 10 章では、次の（12a）が適格なのに、（12b）が不適格なのはなぜかを、Stanley（1969）の見事な説明を分かりやすく解説して、皆さんとこの謎を解き明かしたいと思います。

（12）a. [A man more energetic than Mary] would be hard to find.

b. *[A more energetic man than Mary] would be hard to find.

第 11 章では、"It's a **narrower** road." のように、比較級が用いられているのに、その文にもその前後にも than ～という比較の対象が示されていない文がよく用いられる事実を指摘し、than ～が何であり、どこにあるかを明らかにします。そして第 12 章では、テロリストの自爆行為が、死を覚悟した「勇敢な行為」のはずなのに、どうして cowardly act（臆病な行為）と呼ばれるのかという疑問から出発し、実際、自爆行為を cowardly と呼ぶのは妥当

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

でないと主張する人々の意見を紹介します。そして英英辞典や英和辞典の cowardly の定義を検討し、その不備を指摘します。

本書ではさらに４つのコラムを設けました。コラム①では、Joan Crawford is **an ugly beauty**. や Dr. Conwell is **a penniless millionaire**. のような一見矛盾している表現の謎と面白さについて解説します。コラム②では、Is the glass half-full or half-empty? の疑問文を様々な職業や立場の人がどのように解釈し、どのように答えるかに関して、ウイットに富んだり、思わず笑ってしまうような例を紹介します。コラム③では、２つ（以上）の単語の一部ずつを合わせてできた「かばん語」を取り上げます。Brunch（breakfast + lunch）のように、皆さんよくご存知のものから、bridezilla, Bregret など、目新しいと思われるものまで、多くの例を紹介します。そしてコラム④では、短縮語を取り上げます。Exam（examination）のように、皆さんよくご存知のものから、blog, bot, rents, za など、あまり馴染みがないのではないかと思われるものまで、多くの例を示します。参考にしていただければ幸いです。

この本を書くにあたり、多くの方々にお世話になりました。特に Karen Courtenay, Nan Decker のお二人からは、本書の多くの英語表現に関して有益な指摘をたくさんいただきました。くろしお出版の岡野秀夫氏と荻原典子氏には、本書の原稿や校正刷りを何度も通読していただき、多くの有益な助言をいただきました。ここに記して感謝します。

2018 年　初夏　　著　者

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

目　次

はしがき　*i*

第1章　*Mary cut the bread white. とは言えないのに、Mary likes her tea white. と言えるのはなぜか?　*1*

- 目的語描写述語としての形容詞の叙述用法　*1*
- 同様の主張　*5*
- 従来の説明に対する反例　*7*
- 目的語が表わす対象物は比較対照されるいくつかの状態を有するか?　*10*
- 目的語が表わす対象物が別の対象物と比較対照される場合　*15*
- 誰にとって選択可能な選択肢か?　*16*
- 主語描写述語の場合はどうか?　*18*
- 結び　*22*

第2章　*How raw did you eat the meat? と How rare do you usually eat your steaks? はなぜ適格性が違うのか? —叙述形容詞句の Wh 疑問文—　*25*

- How angry did John leave the room? なんて言えるの?　*25*
- 上記の主張は妥当か?　*28*
- 元の“V . . . AP（形容詞句）”パターンがすぐに想起できるか?　*30*
- さらなる例の検討　*39*
- 結び　*43*

コラム①　She's a beauty. と She's beautiful. は同じ意味か?　*45*

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第3章 限定用法と叙述用法の形容詞の意味の相違 57

- 限定用法の形容詞と叙述用法の形容詞 57
- a lost purse と *a found purse 61
- 安藤の *a found purse は本当に不適格か? 63
- なぜ a found purse のグーグル頻度数は、a lost purse に比べて極小か? 65
- 結び 67

第4章 名詞を修飾する形容詞の語順 71

- a pink nice dress か、a nice pink dress か? 71
- 英文法書の形容詞語順に関する記述 72
- 形容詞語順制約とコーパス頻度数の相関関係(1) 74
- Big と little では異なる語順特性を示す 76
- 形容詞語順制約とコーパス頻度数の相関関係(2) 77
- red small の語順と「熟語性」 79
- 同じカテゴリーに属する2つの形容詞の語順制約 82
- 結び 85

第5章 She's certain/sure to win. は誰の判断を表わすか? 87

- 英和辞典の用語説明 87
- 疑問文の主動詞 be certain/sure to は聞き手の判断を尋ねる 88
- 命令文の主動詞 be certain/sure to は、不定詞句が表わす事象が成就するという判断を聞き手が確認することを命令する 89
- be certain/sure to の主語が一人称代名詞 I, We のときは話し手=主語の判断 90
- 間接話法文の中の be certain/sure to 90
- 自由間接話法文の主動詞の be certain/sure to 91
- 結び 96

コラム② Is the glass half-full or half-empty? 98

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第6章 節・To 不定詞句をとる形容詞 *105*

- That 節をとる動詞と形容詞 *105*
- 他動詞と同様に、「他形容詞」もあるか? *106*
- Aware などは「他形容詞」ではなく、前置詞をとる *108*
- Wh 分裂文 *111*
- To 不定詞句をとる形容詞 *113*
- Wh分裂文の代動詞 do の不可思議 *116*
- Wh 分裂文と似た構文法的特質を示す構文 *119*
- 結び *121*

第7章 *A boy is tall. はなぜ不適格か? —定義文と形容詞— *125*

- 恒常的形容詞は不定名詞句を主語にとれない? *125*
- 不定名詞句主語の総称文は(7)の制約の適用を受けない *128*
- Be 動詞の補語が恒常的状態を表わす文は、主語を定義づける文 *129*
- 定義文の主語名詞句に課される制約 *131*
- 日本語でも同様のことが言える *133*
- A sparrow is dead over there. はどうなる? *137*
- 結び *138*

コラム③ Spork って何か、ご存知ですか? *141*

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第8章 比較構文の謎（1）
—Kevin is as young as Meg. はなぜ二人が若いことを意味するか?— *149*

- 年令が同じか、それとも二人とも{年老いている／若い}のか? *149*
- Old, tall は「一人二役」 *151*
- （9）の談話法規則の意図的違反か、非意図的違反か? *153*
- How 疑問文 *156*
- Heavy / light も尺度形容詞か? *157*
- 「評価形容詞」だとどうなる? *158*
- 評価形容詞の優勢比較構文 *160*
- Beautiful, attractive はどうか? *162*
- Brilliant / bright も beautiful / attractive と同じ振る舞い *164*
- 他の形容詞は? *166*
- How 疑問文に関する補足 *168*
- 結び *169*

第9章 比較構文の謎（2）
—比較構文 than 節の中の am, is, are の縮約形（'m, 's, 're）— *173*

- Bresnan（1973）の問題提起 *173*
- Bresnan の（1b）と（2b）の説明 *175*
- Bresnan の分析に対する反例 *177*
- 比較構文の than 節と動詞句省略 *179*
- さらなる要因 *187*
- 結び *188*

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第10章 比較構文の謎（3）
—*A more energetic man than Mary would be hard to find. はなぜ不適格文か？— 191

- 比較構文の不思議な現象 191
- Stanley の比較構文深層構造 193
- なぜ（1a, b）（=A man more energetic than {Bill, Mary} would be hard to find.）は適格文か？ 195
- 後続する名詞を修飾する比較級形容詞を持つ文の深層構造 197
- *John is a more energetic man than Mary. はなぜ不適格文か？ 199
- なぜ John is a man more energetic than Mary. は適格で、*John is a more energetic man than Mary. は不適格か？ 201
- 結び 203

コラム④ ad, bot, rhino, za って何か、ご存知ですか？ 205

第11章 “It's a narrower road.”
—「than ～」はどこにある？— 211

- 「than ～」のない形容詞比較級？ 211
- 「叙述用法」でも同じ？ 214
- 母語話者の意見 217
- 比較の対象は暗黙の基準値・標準値 217
- 別の解釈は可能か？ 220
- 結び 222

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

第12章 テロリストの自爆行為は cowardly か? 223

- 自爆行為は「臆病な行為」(cowardly act)か? 223
- 「臆病な行為」ではないとの意見 224
- 英英辞典のcowardly の定義 226
- *New Oxford American Dictionary* の cowardly の定義 228
- *New Oxford American Dictionary* の cowardly の定義には問題がある 230
- 英和辞典の訳語はどうか? 233
- 結び 234

付記・参考文献 236

[文頭に付されたマークが表わす意味]

*	不適格文
??	かなり不自然な文
?	やや不自然な文
√	無印と同様に適格文

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

*Mary cut the bread **white.** とは言えないのに、Mary likes her tea **white.** と言えるのはなぜか？

第１章

本章では、I like my lunch **hot**. や John came home **drunk**. のような文で、目的語や主語の状態を述べる形容詞（hot, drunk）について考察し、どのような形容詞ならこの構文パターンが適格となるかを明らかにしたいと思います。

● 目的語描写述語としての形容詞の叙述用法

形容詞には、名詞の前に置かれて、その名詞を修飾する限定用法（(1a）参照）と、名詞の後ろに置かれて、その名詞を修飾する叙述用法（(1b, c）参照）とがあります。

（1） a. an **expensive** watch
b. This watch is **expensive**.
c. John seems **angry**.

形容詞の叙述用法には、（1b, c）のように、Be 動詞や seem, appear 等のあとに現われて、補語として主語の状態を叙述する主語補語構文の用法だけでなく、（2a, b）のように、目的語補語構文の用法もあります。

（2） a. I found the book very **interesting**.
b. They considered her speech **wonderful**.

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

*How raw did you eat the meat? と How rare do you usually eat your steaks? はなぜ適格性が違うのか?
—叙述形容詞句の Wh 疑問文—

第2章

本章では、タイトル文にあるような英語の Wh 疑問文（How ＋形容詞 ... ?）を考察し、その疑問文が英語として自然であったり、不自然になったりする理由を明らかにしたいと思います。

● How angry did John leave the room? なんて言えるの？

まず、次の４つの文で、文末の形容詞が文中でどのような働きをしているか考えてみましょう。

（1） a. John left the room **angry**.［主語描写述語］
b. John ate the meat **raw**.［目的語描写述語］
c. John hammered the metal **flat**.［結果述語］
d. John made his wife **happy**.［小節述語］

（1a）は、「ジョンは怒って部屋を出て行った」という意味で、angry は、部屋を出て行ったときのジョン、つまり主語を叙述している（= 主語について述べている／主語を描写している）ので、主語描写述語（subject-oriented depictive predicate）と呼ばれます（【付記１】参照）。一方（1b）は、「ジョンは肉を生の状態で食べた」という意味で、raw は、ジョンが食べた肉の状態、つまり目的語を叙述しているので、目的語描写述語（object-oriented depictive predicate）と呼ばれます（（1a, b）の文パターンに関しては、

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

限定用法と叙述用法の形容詞の意味の相違

第３章

●限定用法の形容詞と叙述用法の形容詞

第１章の冒頭で述べたように、形容詞には、（1a）に例示するように、名詞に先行して、その名詞が表わす意味範囲を限定する用法と、（1b）に例示するように、Be 動詞（や seem, appear 等）のあとに現われて、補語としてその主語の属性や一時的状態を叙述する用法があります。前者を限定用法の形容詞（attributive adjectives）、後者を叙述用法の形容詞（predicative adjectives）と呼ぶことにします（【付記１、２】参照）。

（1） a. a **courteous** boy （限定用法の形容詞）
b. Bill is **courteous**. （叙述用法の形容詞）

Quirk et al.（1985: 1242）と安藤（2005: 483-484）に、限定用法の形容詞と叙述用法の形容詞の表わす意味の違いについて興味深い記述があります。下に、まずこの問題についての Quirk et al. の記述を引用します。Quirk et al. は、この２つの形容詞用法と、それが修飾する名詞句との位置関係に着目して、限定用法を前置修飾用法（premodification）、叙述用法を後置修飾用法（postmodification）と呼んでいます。

（2） Modification in noun-phrase structure may also be seen as permanent or temporary, such that items placed in premodification

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

名詞を修飾する形容詞の語順

第4章

a pink nice dress か、a nice pink dress か？

日本語では、「ピンクの素敵なドレス」とでも、「素敵なピンクのドレス」とでも言えます。ところが、英語の母語話者に尋ねると、例外なく誰もが、a nice pink dress は適格表現だけれども、a pink nice dress は、まったく不適格な表現だと言います。同様、日本語では、「大きい赤い風船」とでも、「赤い大きい風船」とでも言えますが、英語の母語話者に尋ねると、誰もが、a big red balloon は適格表現だけれども、a red big balloon は、不適格表現だと答えます。

Forsyth（2013: 45）は、名詞を修飾する形容詞の語順を次の（1）のように規定し、その語順を（2）で例示しています。

（1）	opinion –	size –	age –	shape –	colour –	origin –	material –	purpose –	Noun
	|	|	|	|	|	|	|	|	|
（2）	a lovely	little	old	rectangular	green	French	silver	whittling	knife

（2）の whittling は、whittle（「（木など）をナイフで少しずつ削る」）の現在分詞形です。Forsyth は、この語順を母語話者なら誰でも無意識のうちに守っている、犯すべからざる語順であるものの、誰も上のような語順規則として述べることはできないものと性格づけています。この本は学術書ではなく、一般読者を対象とした啓蒙書で、この語順制約の出典は示されていませんが、主な出典

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

She's certain/sure to win. は誰の判断を表わすか?

第5章

英和辞典の用語説明

本章のタイトルの英文について、『ジーニアス英和辞典』（初版 1988, 改定版初版 1994, 改定版 5 版 1998, 第 5 版 2014）の be certain to, be sure to の項に次の主旨の記述があります。タイトルの疑問文の答えに当たる箇所に下線を入れます。

（1） certain [be *certain* to do] ＜人・物・事は＞間違いなく…する、＜人・物・事が＞ …するのは疑いがない《確信している人は話し手》‖ He is *certain* to win. = It is *certain* that he will win. 彼は必ず勝つ（と私は思います）（= He will *certainly* win. = I am *certain* of his winning.）/ This medicine is *certain* to work on you. この薬はきっとあなたに効きます

（2） sure［話し手の確信を表わして］[be *sure* to do] ＜人・物が＞きっと［必ず］…する ‖ It's *sure* to rain this afternoon. 午後にはきっと雨が降る / She is *sure* to succeed. 彼女はきっと成功する（= I am *sure* that she will succeed.）《成功することを確信している主体は she ではなく、この文の話し手である「私」》
（【付記 1】参照）

文法書と異なり、辞書はごく限られたスペースで用語の説明を

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

節・To 不定詞句をとる形容詞

第6章

● That 節をとる動詞と形容詞

皆さんよくご存知のように、動詞には、次のように that 節をとる（そのあとに that 節が現われる）ものがあります。

（1）　John **thinks/says/claims/reveals** that he has terminal cancer.

これらの動詞は、他動詞（transitive verb）と呼ばれ、そのあとに現われる that 節は、その動詞の目的語として機能します。この種の動詞には、他に次のようなものがあります。

（2）　accept, admit, agree, announce, argue, assume, believe, complain, confess, consider, demand, deny, doubt, expect, feel, forget, guess, hear, hope, insist, know, note, notice, observe, promise, propose, prove, realize, remember, reply, report, request, show, suggest, suppose, understand, wish, etc.

形容詞にも、次のように that 節をとるものがあります。

（3）　John is **certain/afraid/aware** that he has terminal cancer.

この種の形容詞には、他に次のようなものがあります。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

*A boy is tall. はなぜ不適格か？
― 定義文と形容詞 ―

第7章

● 恒常的形容詞は不定名詞句を主語にとれない？

私たちは第１章で、形容詞は次に再録するように、修飾する名詞の一時的状態を表わすものと、恒常的状態を表わすものがあることを観察しました。

（1） 一時的形容詞：
sick（病気の）、angry（怒った）、hungry（空腹な）、tired（疲れた）、drunk（酔った）、naked（裸の）、open（開いた）、asleep（眠っている）、empty（空の）、absent（不在の）、available（利用できる）

（2） 恒常的形容詞：
tall（背が高い）、intelligent（聡明な）、stupid（愚かな）、cross-eyed（斜視の）、deaf（耳の不自由な）、faithful（誠実な、忠実な）、left-handed（左利きの）、interesting（面白い）、talkative（話し好きな）、dead（死んでいる）

本章でも第１章と同様に、（1）のような形容詞を一時的形容詞、（2）のような形容詞を恒常的形容詞と呼びましょう。

さて、（1）と（2）の形容詞はどちらも、主語が John や the boy のような定名詞句の場合、次のように、その主語を叙述する補語（complement）として、「主語＋ be 動詞＋述語（形容詞）」パターンの文に現われます。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

比較構文の謎（1）
— Kevin is as young as Meg. は なぜ二人が若いことを意味するか？ —

第8章

● 年令が同じか、それとも二人とも｛年老いている／若い｝のか？

まず、次の文を見てみましょう。

（1） a. Kevin is as **{old / tall}** as Meg.
b. Kevin is as **{young / short}** as Meg.

（1a）は、ケヴィンとメグの年令や身長が同じというだけで、二人が年をとっている（old）とか、背が高い（tall）と言っていないことは、誰にも明らかです。その証拠に、この文は次のような文脈で用いることができます。

（2） a. Kevin is as **old** as Meg, though they are both still **under age**.［under age：成年に達していない］
b. Kevin is as **tall** as Meg, though they are both quite **short**.

一方（1b）は、二人の年令や身長が同じであると述べるだけでなく、二人とも若い、背が低いということを意味します。したがって、この文を次のような文脈で用いることは通常できません。

（3） a. *Kevin is as **young** as Meg, though they are both **over 80 years** old.

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

比較構文の謎（2）
― 比較構文 than 節の中の am, is, are の縮約形（'m, 's, 're）―

第9章

本章ではまず、I'm sad, more than **I'm** angry. の than 節では、I am が I'm に縮約できるが、*I'm sadder than **I'm** angry. の than 節では、I am が I'm に縮約できないという Bresnan（1973）の分析を概観します。そして、この分析には致命的な欠陥があることを指摘し、私たちの分析を提示します。

● Bresnan（1973）の問題提起

Bresnan（1973）からの次の文を見てください。

（1） a. I am sad, more than **I am** angry.
　　 b. I'm sad, more than **I'm** angry.
（2） a. （I'm both angry and sad, but）I'm sadder than **I am** angry.
　　 b. （I'm both angry and sad, but）*I'm sadder than **I'm** angry.

（1b）の than 節には、I am の縮約形 I'm が現われていますが、この文は、適格文です。他方、（2b）の than 節にも、I am の縮約形 I'm が現われていますが、（2b）は Bresnan の判断では不適格文です。

Bresnan はこの謎を、次の例を用いて、現在時制の助動詞の縮約形は、削除サイト（= ある要素が削除された跡）の直前には起こり得ない、という制約に起因させようと試みます（【付記１、２】参照）。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

比較構文の謎（3）
— *A more energetic man than Mary would be hard to find. はなぜ不適格文か？ —

第10章

本章では、[A man more energetic than Mary] would be hard to find. は適格なのに、タイトルの英文 *[A more energetic man than Mary] would be hard to find. が不適格なのはなぜかを、Stanley（1969）の見事な説明を分かりやすく解説して、読者の皆さんとこの謎を解き明かしたいと思います。

● 比較構文の不思議な現象

次の４つの文を見てください。（1b-d）は、Richard Stanley（以下、Stanley）の “The English Comparative Construction”, *CLS* 5（1969）, pp. 287-292 からの引用です。

（1） a. A man more energetic than Bill would be hard to find.
b. A man more energetic than Mary would be hard to find.
c. A more energetic man than Bill would be hard to find.
d. *A more energetic man than Mary would be hard to find.

上の４つの文のうちで、（1d）だけが不適格です。（1c）と（1d）の違いは、than のあとが Bill か Mary かだけの違いなので、（1d）が不適格なのは、a more energetic X than Y という構文は、X と Y の文法性（grammatical gender — [+male] か [+female] か）が一致していないからだと考えられます。それでは、（1b）の “an X more energetic than Y” でも、X が “man” で Y が “Mary” なので、

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

“It’s a narrower road.”
—「than ～」はどこにある？—

第11章

「than ～」のない形容詞比較級？

上のタイトル文には、形容詞の比較級 narrower が使われているので、皆さんは、その道路がどの道路より狭いのかという、比較の対象がこの文の直後にあるか、あるいは先行文脈ですでに話題になっているので、省略されていると思われることでしょう。しかしこの文は、ある警官が交通事故について話している次の新聞記事からの引用で、than ～ という比較の対象は、この文にも先行文脈にも示されていません。

（1） “It’s **a narrower road**, the driver saw a school bus coming in the opposite direction, he pulled to the right to give himself room ....”
「それはかなり狭い道路で、ドライバーはスクールバスが反対方向から来るのが見えたので、スペースを作るために車を右に寄せた。」

実は、比較の対象がこのように文中の前後に存在しないのに、比較級が用いられる例は数多くあります。次の実例もすべて同様です。

（2） a. It’s **a newer hotel** with modern rooms.
「それは、現代的な部屋が揃ったかなり新しいホテル

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers

テロリストの自爆行為は cowardly か？

第12章

● 自爆行為は「臆病な行為」（cowardly act）か？

1983 年、自爆テロリストがベイルートの米国大使館ビルの玄関に配送バンを乗り付け、大使館ビルを爆破し、大使館員米国人 17 人、レバノン人 32 人を含む合計 63 人の死者、およそ 120 人の負傷者を出すという事件が起きました。当時の米国大統領ロナルド・レーガン（Ronald Reagan）が、このテロリスト行為を cowardly act と呼ぶのを聞いたとき、死を覚悟の上の「勇敢な行為」のはずなのに、どうして「臆病な行為」と呼ぶのか、不思議に思いました。

2001 年 9 月 11 日、19 人のテロリストが、4 機の旅客機をハイジャックしました。そのうちの 2 機は、ニューヨーク市のワールドトレードセンター（World Trade Center）のノースタワー（North Tower）とサウスタワー（South Tower）に追突して爆破し、1 機は、ヴァージニア州アーリントンのアメリカ国防総省本庁舎（ペンタゴン）の西セクションを破壊しました。残りの 1 機はワシントン D.C. に向かう途中、機の奪還に乗り出した乗客の有志の反撃にあい、ペンシルベニア州の野原に墜落しました。9/11（ナイン・イレブン）と呼ばれる事件です。乗客とターゲットのビルの死者約 3,000 人、地上の消防士・警察官・警備員の犠牲者約 400 人という大惨事でした（Wikipedia）。当時の大統領ジョージ･ブッシュ（George W. Bush）も、この自爆テロリストの行為を cowardly と呼びました。

BOOK SAMPLE ©Kurosio Publishers